

と畜検査で発見される病気 牛編 No5 牛白血病

☆ どんな病気なの？

牛白血病は文字どおり、牛の白血病（血液のガン）です。近年増加する傾向にあり、この病気が発見されると全部廃棄になるため、経済的な損失も大きく、注意を要する病気といえるでしょう。ちなみに京都市と畜場では、平成22年度に、4頭の牛が牛白血病と診断され、全部廃棄されました。

☆ 牛白血病

牛白血病には以下の4つの型があります。

- ①成牛型（全身のリンパ節が腫脹）
- ②皮膚型（体表の腫瘍性結節が発生）
- ③子牛型（2才未満の子牛で全身のリンパ節が腫脹）
- ④胸腺型（胸腺の著しい腫脹）

成牛型白血病は牛白血病ウイルスを原因とする疾患で最も発生数が多いです。その他の型の白血病の発症原因は現在のところ分かっていません。

☆ 症状

元気消失、下痢、消瘦などから始まり、全身のリンパ節や脾臓が腫れたり、全身の各臓器に白色結節（腫瘍化病巣）が見られます。生体検査で発見されることは稀で、解体後検査で発見されることが多いです。

☆ 検査

肉眼検査で牛白血病を疑ったものは保留し、精密検査を行います。病理組織学的検査（組織切片で腫瘍性リンパ球の増殖が見られるか）の他に血液検査、血液塗抹標本、抗体検査、遺伝学的検査などの結果を総合して判定します。

☆ 牛白血病の病理組織切片

腫瘍組織では腫瘍リンパ球の増殖とリンパ節構造の崩壊が見られるほか、腫瘍細胞を貪食したマクロファージが認められ、Starry Sky 像と呼ばれます。Starry Sky とは星空のことです。薄い胞体を持つマクロファージを星に見立てているのですね。

腸間膜リンパ節の腫大



下の正常な牛の脾臓に比べ、著しく腫大しています！



Starry Sky 像

矢印が腫瘍細胞を貪食したマクロファージです。

